

成果 2 パイロット活動 ラ・アミスタ(パナマ、コスタリカ)でのパイロット活動計画

ラ・アミスタ地域には、コスタリカとパナマ両国が管理、領域が重なる、国際国立公園、世界遺産、バイオスフェアリザーブの 3 つの保護区が存在する。この地域のパイロット活動対象は、保護区緩衝地域に位置し、両国の国境を挟み隣接する 2 村落である。コスタリカ側は Las Mellizas 村落、パナマ側は Piedra Candela 村落で、いずれの村落でも、コーヒー生産が主力経済活動であり、同時に生物多様性を脅かす要因となっている。このような状況下、両村落では、村落レベルパイロット活動として、「生物多様性の保全とこの利用による生計向上の両立」を目的に、①環境配慮型コーヒー生産の導入、②養蜂の導入、③景観の改善(植生回復)、これらの適切な運営を目的とした④生物多様性持続的保全・利用計画の策定の 4 コンポーネントを行う。各コンポーネントは互いに強い関係性を持つ。例えば、養蜂は①のコーヒーや③の樹木の受粉の改善、③の樹木は、①のコーヒーの日陰樹や②の養蜂での蜂の蜜源として機能する。



Las Mellizas でのパイロット活動計画策定に係る農家との会合



Piedra Candela でのコーヒー生産

パイロット活動の期間は 2022 年 12 月から翌年 12 月までの約 1 年と短い。1 年は、生産・成長サイクルが数か月から数年と中長期に渡る植物などの生態系を相手にする環境や農業セクターにとって、何等かの変化をもたらす、あるいは結論を導き出すには非常に短い。このため、本活動では、活動完了後の、継続支援や定期的フォローアップの実現を視野に入れ、現場の既存人資源を活用した実施を持続性確保の戦略とした。具体的には、カウンターパート機関であるコスタリカ国家保護区庁(SINAC)やパナマ環境省(Mi Ambiente)の他、前者では国家コーヒー協会(iCAFE)や農牧開発省(MAGA)など、後者では農牧開発省(MIDA)や科学研究高等技術サービス局(INDICASAT)などの現場専門家の参加による各種活動の実行である。

ラ・アミスタ地域は越境保護区であり、かつ両村落が近接していること、生態系や社会経済特性が類似していることを考慮、越境レベルパイロット活動では、両村落が目標を共有しての植林、コーヒーや養蜂に関するセミナーの相互共有などの協働を予定している。これにより、村落間での生物多様性の共有意識の醸成や、両国で異なる幅広い技術やアイデア、経験の習得を進める。